特別講演

脳血管障害領域における血管内治療

帯広厚生病院　脳神経外科　**能　代　将　平**

2008 年に頚動脈狭窄症に対する頚動脈ステント留置術が保険適応となり，脳血管障害領域において血管内治療は一般的な治療法の一つとして，多くの施設で行われている．比較的患者数の多い，脳主幹動脈急性閉塞症，頚動脈狭窄症，脳動脈瘤の 3 疾患に対する治療の実際と術前後画像検査について述べる．脳主幹動脈急性閉塞症に対する機械的血栓回収術は，ステントリトリーバーもしくは吸引カテーテル，両者の併用で行われる．頚動脈狭窄症に対する頚動脈ステント留置術の手技はステント留置と前後拡張であるが，遠位塞栓防止のためのプロテクションデバイスの選択も重要である．脳動脈瘤に対する治療はコイル塞栓術が一般的治療である．バルーンやステント，ダブルカテーテルなどの手法があり，近年では未破裂脳動脈瘤に対してフローダイバーターステントなども使用できるようになっている．術前後の画像評価ではそれぞれの治療で求められる情報があり，当院の経験症例を紹介しながら，解説する．